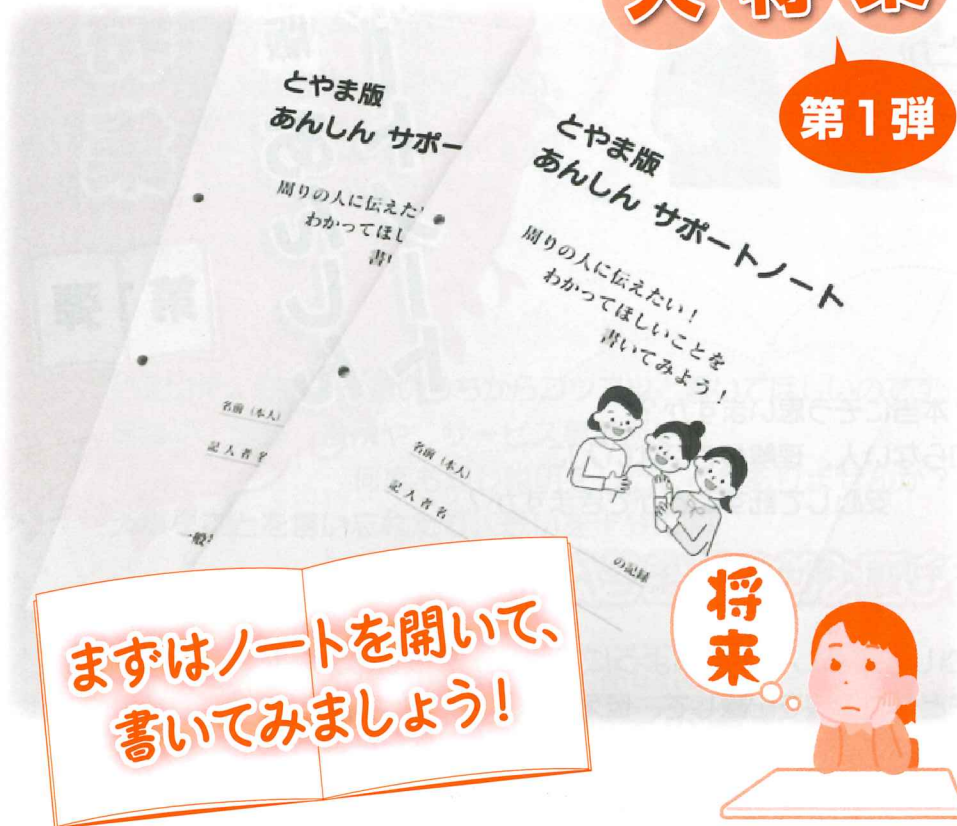


# とやま版 あんしんサポートノート

## 大特集

第1弾



# 手をつなぐ とやま

第175号

富山県手をつなぐ育成会  
富山市安住町5-21  
富山県総合福祉会館内  
TEL 076-441-7161  
FAX 076-441-7255  
mail toikusei@minos.ocn.ne.jp  
HP http://toyamaikusei.jp/

発行責任者  
平野 幹 夫

みなさんの会報です  
よく読みましょう

— 運転は 心の広さの パロメーター —

### 書くたびに、安心が増えていく

### 書くたびに、将来が見えてくる

今回は、「とやま版あんしんサポートノート」の特集をお送りいたします。

子どもの成長歴や親の思い、将来の希望を記録するこのノートは、平成27年に完成し、正会員の皆様にお渡ししております。

ぜひ、お手元のノートを広げながら、読んでいただければと思います。

さて、皆さんはノートを書いていらっしやいますか？

「書くところが多すぎて、どこから書けばいいのか」

「いつか、時間のある時にでも」

「昔のことはほとんど忘れてしまっって」

「うちの子はしっかりしてるから」

「職員さんが、ほとんど理解されているから」

「まだまだ私も子どもも若いから」……

だから、まだ書いていないという声が多いのが現状です。

しかし、このコロナ禍での不安や、親なき後学習会を機に、子どもの情報や記録を残す必要性を感じ、少しずつ取り組み始めている方もいらっしゃいます。

たくさんの方の理解を得て、安心して暮らしていくために、また、将来を考えるきっかけとして、「あんしんサポートノート」を書いて、わが子のことをもっと知ってもらいましょう。

そして、いつか「わが子」を社会に委ねる時には、皆さんの、いろんな思いがノートを介して、周りの人によく伝わるようにしておきたいですね。さあ、ノートを開いて、書いてみましょう！



とやま版  
サポートノート  
大特集  
第1弾

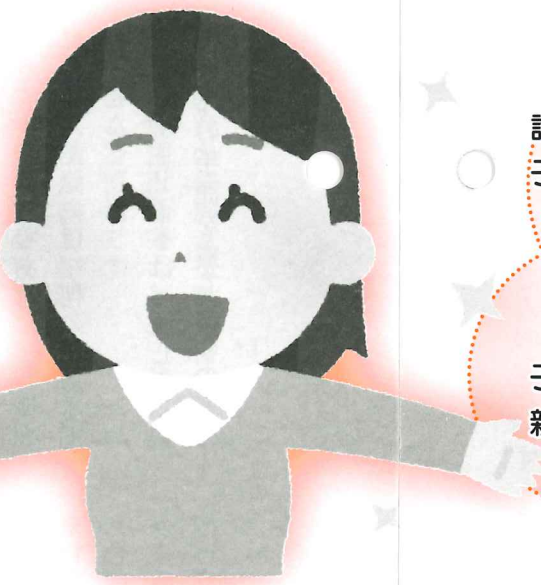
子どもも小さいし、  
まだまだノートの  
使いみちはなさそうね。



先のことは不安だけど、  
何だか面倒……  
もしもの時は、誰かが何とか  
してくれるでしょ？

いえいえ、親も子も若いうちからコツコツと書いてほしいのです。  
病院や、学校、役所や、サービス事業所で、  
何度も同じ説明をしたことがありませんか？  
大事なことを言い忘れたり、思いを十分に  
伝えきれなかったことはありませんでしたか？

**これから、いろんな場面で、  
ずっと役立っていきます！**



誰かが何とかしてくれる？本当にそう思いますか？  
子どものことを、あまり知らない人、理解していない人に、  
安心して託すことができますか？

**今からでも遅くはありません！**

子どもが、いつまでも安心して暮らしていけるように、親しか知らない、  
親が一番よく知っている子どもの情報を記録して、伝えていきましょう。

**お子さんの人生に、ずっと寄り添い支えていくノートです**

<p>全部でなくともいいんです。 書けるところから始めて下さい。</p>	<p>本人、親、家族の歩み</p>
	<p>健康・医療の記録</p>
	<p>性格、コミュニケーション、好きなこと嫌いなこと、得意なこと苦手なこと</p>
	<p><b>乳幼児期</b>                      <b>学  齡  期</b>                      <b>成  人  期</b></p>
<p>活用できる場面</p>	<p>医療機関に持参して説明しましょう</p> <p>障害基礎年金の申請に必要な情報がつまっています</p>
	<p>就労先へ本人の特性が具体的に伝わります</p> <p>成育歴や治療歴を学校や就労先と共有できます</p>
	<p>本人の希望、親の思い、支援が途切れないように必要な情報を記録しましょう</p> <p>ライフプランを家族で話し合うきっかけになります</p>

育もう 傷みをわかる 心の眼

飛ばすまい みんなの町です 道路です



# 「おすすすめポイントは「一石二鳥」であるのだ」 記録を積み重ねていきましよう

又村あおいさん

全国手をつなぐ育成会連合会  
常務理事兼事務局長

サポートノートの作成を、お勧めする最大の理由は、「一石二鳥」であることです。

そして、サポートノートの優れた点は、「積み重ねていける形式」になっていることです。

障害のあるお子さんの親御さんは、あらゆる場面で、何回も何回も、同じ説明をくり返さなければなりません。

もし、記録したもの（サポートノート）があれば、幼少時に、健康診断でサポートが必要な子どもだとわかり、療育機関に通いだした時のことや、小学校入学、進級、特別支援学級、特別支援学校と、お子さんの成長に合わせて、変わってきた場面毎の記録を、「まずは、これを見てください」と、お渡しして話すことができます。

しかし「記録」がなければ、「記憶」を頼りに、全てを口頭でお話しすることになりますが、それは大変なストレスになるでしょう。（振り返ることができるといいう、利点はありますが。）



記録を積み重ねてきた結果、例えば「障害基礎年金」の申し立ての手続きの際、申立書と医師による診断書の整合性を問われるときにも、サポートノートに下書きができていた状態であれば、時系列に沿った記録には、何の矛盾もありません。

サポートノートは、決して、親御さんの手間を省くためのもの

だったり、障害基礎年金の申請対策のためだけの物ではありませんが、書き始める「きつかけ、入り口」は、そこからでも良いのではないかと思えます。

結果的に、記録していたものが積み重なっていったって、お子さんが30代、40代、50代となった時に、親の手を離れ、誰かに託す時に、これまでの記録が積み重なったノートが「完成品」となって、託した相手に引継書として渡っていくことがゴールになります。

しかし、いきなりゴールには辿り着きません。ゴールに向かって、記録を重ねていく過程の中で、幼少・学齢期に何度も説明する時のツールに、障害基礎年金の申立書の基礎資料にと、様々な場面でサポートノートはお役に立つのです。「一石二鳥」である所以は、ここにあります。ぜひ、お若い方も、今からコツコツと記録を積み重ねていって下さい。

※11月26日(木)に開催した「育成会合同研修会」の講師としてご来県いただいた際に、インタビューさせていただきました。

## 次回の会報では、「サポートノート大特集 第2弾」をお送りいたします

- 保護者会や育成会での、ノートを使った研修会の様子や、参加者の感想
- 財産管理や相続の専門家から見た、サポートノート
- 成年後見人が求める記録や情報
- きょうだい児が思う、サポートノート
- グループホーム利用にあたりノートを活用した事例

……などなど、具体的なサポートノートの活用方法等を紹介する予定です。

ノートの使い方、書き方は  
あなた次第、自由です

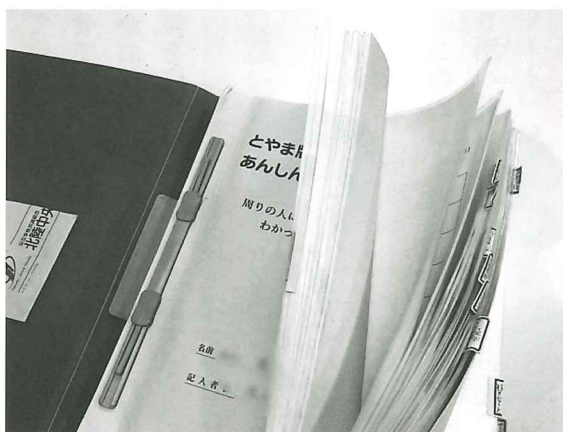
このノートは「完成品」ではありません。

ノートにはいろいろな情報が書けるように項目が分けられています。お子さんの障害特性やご家族の状況、環境などによっては、不足している部分があるかもしれません。必要だと思われる項目や情報を独自に追加してください。記入様式に捉われないで、枠外にはみ出して書いても良いですし、別の用紙を加えても構いません。



2穴式のファイルに綴じるようになっていきますので、リングファイルを使用して、個別の支援計画

書や教育の個別支援計画書、サービズ等利用計画書なども一緒に綴じておくとう便利です。ノートは1枚1枚がバラバラになりますので、必要なページだけを抜き出したり、コピーしたりして使うことができます。



また、サポートノートは全国各地、いろいろな団体や行政機関で作成されており、『とやま版あんしんサポートノート』も、多くの先進事例を参考にして作りました。中には、自由にダウンロードできるものもありますので、いろ

いろ参考にしながら、自分だけのノートを作られても良いですね。あなたが書きやすいように、使いやすいように、自由にノートを作ってください。

書けるところから  
はじめましょう！

約40ページのサポートノートを前にすると、「書くところがいっぱいあるなあ」と嫌になるかもしれません。

月並みですが、そんな時には、「書けるところから始めましょう！」。

そして、「思い立ったが吉日。その日から書いてみましょう！」

一番書きやすいのは、「本人の基本情報」です。

本人と親の氏名、連絡先、保護者以外の緊急連絡先等は、すぐに書けると思っています。

次は、療育手帳や受給者証、健康保険証、医療の診察券、服薬の説明書、保険証書、年金証書を用意して記録しておきましょう。

書くのが大変という方は、コピーして別紙に貼り付け、一緒に綴っておくことをお勧めします。必要な時に、それぞれの情報を出してくるのは意外に大変で、面倒くさいこともあります。ノートにまとめておくと、すぐに情報を引き出すことができます。

家のどこにノートがあるか、それだけでも家族に伝えておけば、いざという時にも役立ちます。

【本人の基本情報】にもかかわらず、書いていくうちに、もしかしたら、「これは家族みんながわかっているの?」、「情報を把握しているのは、管理しているのは、自分だけじゃないの?」と思うかもしれません。





**医療情報も忘れずに！  
いざという時にも安心です**

新しい医療機関を受診する度に、何度も繰り返し、同じ説明をしていませんか？

緊急時に落ち着いて、お子さんの健康状態や医療情報を説明することができませんか？

お子さんは、病院に一人で行って、自分の症状や服薬、これまでの治療歴を、お話しすることができますか？

ノートに情報がまとめてあれば、見ながら説明したり、いざという時にも落ち着いて状態を伝えたりすることができます。

もし、お子さんが、一人で病院に行くようになっても、他の誰かが付き添うようになっても、情報が共有ができるこのノートが手元があれば、安心できます。

日常生活の中で、お子さんのちょっとした様子から、体調の不具合や変化を感じ取ってもらえるかもしれません。例えば、てんかん発作の有無や、その前兆の様子、

— 子がまねる 親の正しい 歩き方 —

アレルギーの有無なども予めわかっていると、より安全な支援に結びつきますので、ノートを使って伝えておきましょう。

また、医療機関に恐怖心を持っているお子さんも、少なくありません。初めて受診する病院でも、トラブルなく、できるだけ配慮していたできるように、ノートを見せて「こうすれば大丈夫」、「これがあれば落ち着ける」といった情報を伝えることができます。



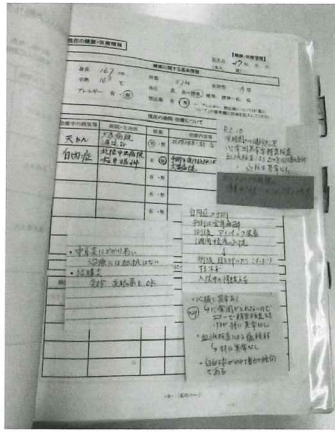
子どもの泣き声や、  
ザワザワしている  
場所が苦手です。

折り紙や、パズルが  
あると、落ち着いて  
待つことができます。

**年齢や環境に変化が  
あつた時にはどうする？**

現在、会員の皆様には、ノート本体を1冊ずつお渡ししていますが、記入日以降、年齢や環境等に変化があつた時に使いにくい、変更や、追加しにくいという声があります。

そこで、5年前からこつこつと記入しているという方に、ノートを見せていただきました。



基本は5年前に書いたもの。

変化がある毎に、付箋に記入して該当のページに貼り付ける、ノートと同じA4サイズの用紙に記入する、入力したものを印刷し、基本ページの次に綴じていく

といった工夫がされていました。「古い記録」は大切ですので、消したり、捨てたりせずに、残しましょう。

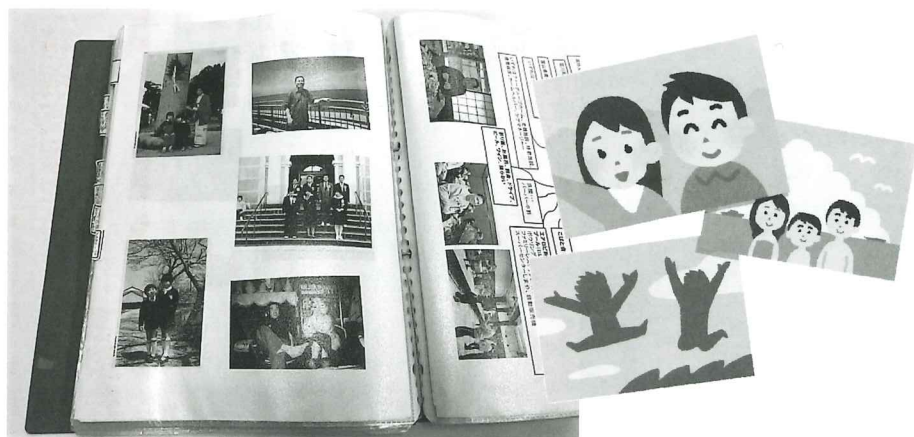
**お子さんの人生に  
寄り添い続けるノートです**

サポートノートは、書いていくうちに、どこで暮らす、どこで働く、お金はどれぐらい必要かなど、自ずと将来に思いを馳せることができるようになっていきます。

また、又村さんのインタビューにもあるように、生まれてから、これまでの記録は、ライフステージが変わる時、障害基礎年金の申請時、親が支援できなくなった時、親なきあと、色々な場面で役立ちます。

お子さんが、あらゆる支援を受ける時、今の様子だけを見て判断されるのではなく、これまでどのように育ってきたのか、どんな支援を受けてきたのか、大きな病気はしなかったのか、どんなことが好きなのか、苦手なのか、記録や





情報が多ければ多いほど、よりよい支援につながっていくはずですが、昔のことは思い出せない、という方は、家族での写真、誕生日の写真、入学式、卒業式、運動会等の学校行事写真、成人式、楽しい顔、泣いてる顔、真剣な顔、

節目節目のいろいろな写真を貼ってみることをお勧めします。

写真を見返しているうちに、あの時はこうだった、ああだったと、思い出すこともあるかもしれません。

「とやま版あんしんサポートノート」は、お子さんの人生に寄り添い続けるノートです。

この人はどんな人？  
どんな人生をおくってきたの？  
親御さんの思いは？

ノートを通して、たくさんの人に深い理解を得て、途絶えることのない一貫した支援が引き継がれていくよう、これまでの歩みを記録して、伝えていきたいと思います。

**全国各地の育成会では、親の思いを込めて子どもの記録を残す多様なノートが作られ、学習会が進んでいます。**

今回は、同じ仲間として、栃木県手をつなぐ育成会会長であり、全国手をつなぐ育成会連合会副会長として活躍中の、小島幸子さんにメッセージをいただきました。

## 「障害のある人の安心と幸せのために」サポートノート記入のおすすめ

(一社) 栃木県手をつなぐ育成会  
会長 小島 幸子さん

私の住む栃木県にも「生活サポートファイル」があり、県内各地に出向き、会員の皆さんに書き方の出前講座を行っているところです。

親は、いつまでも子どもとられるわけではなく、親の次に子どもを支えてくれるのは、個人ではなくて昼間や夜間の暮らしをサポートする多くの職員や相談支援専門員、看護師、かかりつけ医など支援者のチームだと考えています。その支援者チームに親の記憶が確かなうちに、子どものことを伝えていきたいと思います。

私は、障害のある長男が生まれてから「ぼくは、こんな人。ライフストーリーワーク」という形で息子の自己紹介風にまとめています。未熟児で生まれたのですが、未熟児室の看護師に抱っこされた写真を貼って、私は「早く産んでしまっでごめんなさいという気持ち

ちだった」と書いています。

保育園時代「いつも先生と一緒に」と、長男と先生の楽しそうな写真を貼って、私は「いつもすみません、すみませんの毎日でした」と書いています。その後、特別支援学校時代には入学式の親子写真などを貼って「先生方の力がなくては、この大変な子育ては出来なかった」と書いています。

そして現在の生活介護事業所と続き、「親も子もそれなりに楽しい毎日です」と綴り、これからの記録は続いていきます。

子育てをふりかえると、誰にもいろいろな思いがあります。嬉しかったことも悲しかったことも、写真と一緒に短い言葉で記録してあると、支援者にも本人と家族の歴史がわかりやすく伝わるのではないのでしょうか？

親なき後も本人が安心して幸せに暮らせることを願いつつ、書けることからサポートノートに記入してみませんか？



特別支援学校長との懇談会

10月13日(火)、毎年恒例となっている、特別支援学校長との懇談会を開催しました。

校長先生方には、学校卒業後に安心・安全な地域生活を送るためには、同じ仲間である育成会とつながっていることが大変重要であると、理解を得ています。



高岡市育成会の神島会長は、わが子の卒業時に先輩からの話を聞

— 人権は かけ声よりも 心がけ —

いて、将来への見通しを持たせ、経験を語られました。また、子どもたちの卒業後の行き場や生活の場、その多くが育成会活動の遺産であることを、広く周知する必要があること、まだまだ不足している、子どもたちの将来の生活の場を、地域への理解啓発をしながら、更に整えていく事がこれからの育成会の目標であり、育成会は「子どもたちの将来を担う会」であると発言されました。

今回は、育成会がどんな活動をしているのか、どのように「伝える」のかという課題を共有すると共に、保護者側も積極的に「知ること」によって、これからの地域生活がより良いものになっていくのではないかとといった、ご意見もありました。

いざという時に慌てないように、先に、先にと、仕掛けていくことが育成会の役割という指摘もあり、この育成会の活動をどのように伝え、知ってもらおうのか、たくさんアイデアを出し合いながら、話し合いを進めていくのも、育成会の大切な活動であると感じました。

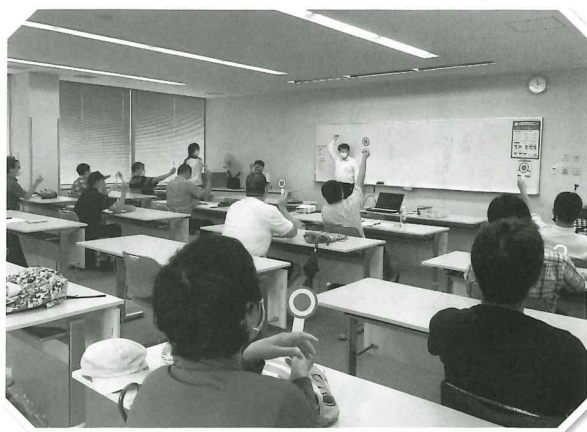
本人活動「選挙」についての学習会

9月13日(日)、7月以来2か月ぶりの本人活動部会を行いました。本人部会の参加者は、政治や選挙に関心が高く、毎回、投票に行っているという人がほとんどです。10月には富山県知事選挙があることから、今回は「選挙について」をテーマに学習会を行いました。

(候補者名の例は支援者の名前を使い、先入観を持たないように配慮しました。)

まずは、総務省によるYoutubeの主権者教育動画「まなべ！センキョッキョ」を鑑賞。3分程度の短い動画で3本、ガチャピン、ムックと一緒に身近な出来事を題材に楽しめる、とてもわかりやすいものでした。

次は、投票用紙への記入について。いざ投票に行きたくて記入したけれど、間違えたり、余計なことを書いたり、敬称をつけてしまったりと、実際に「あるある」と思える例を出しながら、〇×カードを



使って考えました。

教えてくれた支援者さんは、開票に立ち会った経験に加えて、事前に選挙管理委員会に確認するなど、事前準備万端。

後ろで見ていた事務局自身、「へえ、そうなんだ」と声も聞かれるような情報が多々あり、飽きずに、楽しみながら、大変良い勉強になりました。

みんな躊躇せずに、どうしてそう思うのか、自分の意見をどんどん言えるのが、本人活動のいいところです。



最後には「自分の意見を届けるために、選挙には必ず行こう」という声がありました。今後このような学習会を続けていこうと思います。

### 「パイロットウォーク」& 富岩運河水上クルーズ

#### 本人活動部会②

11月8日(日)、本人活動部会を行いました。

「パイロットウォーク」には毎年、富山県育成会から100名以上が参加し、大変人気がありますが、今年はコロナ感染防止の観点から、少人数の参加に制限されたため、本人活動部会の行事として参加することになりました。

富山パイロットクラブのメンバーであり、翌9日から富山県知事に就任される、新田八朗さんからは、「この子らを世の光に」という糸賀一雄先生の言葉を紹介され、本人たちを温かく激励されました。大変盛り上がった開会式の後、環水公園内を1周するウォークに出发！紅葉に染まりつつある木立の中

を約1時間、気持ちよく歩いてきました。富山パイロットクラブ様ありがとうございました。

富山パイロットクラブは、「友情と奉仕」を信条に、障がい者と健常者が共に歩める社会を目指し、2017年には結成20周年を迎えました。パイロットウォークは、障がいのある人と支援者や協力者が共に歩き、広くこの活動を周知することを目的に、毎年開催されています。



午後からは「本人活動部会」として、富岩運河水上ラインを優雅にクルーズ。

水位差を二対の扉で調節するパナ運河方式の閘門、「水のエレベーター」を体験したり、水上から岸辺を散歩する人に手を振ったり、居眠りしたり、久々に屋外で顔を合わせて、楽しいひと時を過ごしました。

帰り際、「次の本人部会はいつ?」「今度は何する?」という声が多く、安全な環境を確保しながら、できることを模索していきたいと思います。

— あたたかい 心と心のふれあい — 守ろう人権 —





# 令和3年度 富山県予算に対する要望書

令和2年10月28日に提出しました

## ① 新型コロナウイルスに 関する不安の払しょく

- (1) 新型コロナウイルスの影響により疲弊状態にある、障害のある人とその家族が孤立しないよう、子育て支援や家族支援施策の一層の充実強化  
【令和2年度国補正予算で「在宅障害者等に対する安否確認等支援事業」を実施】
- (2) 知的障害児者が感染した場合の医療提供体制や、介護を担う家族等が感染したときの一時受け入れ施設の設置など支援体制の確立  
【神奈川県、神戸市、東京都杉並区で一時受け入れ施設を設置】
- (3) 入所施設やグループホームな

どの生活支援施設において、感染が発生した場合に、事業所の機能維持を図るための支援体制の確立

## ② 権利擁護の推進

- (1) 障害者差別解消法や「障害のある人の人権を尊重し県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例」の一層の普及・啓発と、新型コロナウイルス感染症等を理由とする偏見や不当な差別、風評被害の防止徹底
- (2) 本人の高齢化や親亡き後を見据えて、障害者が住み慣れた地域での安心した暮らしにつながる成年後見制度の利用が促進されるよう、呉西地区成年後見センターのスタッフ増員など、権利擁護支援の中核機関の機能強

化と市民後見人の育成の推進

- (3) 「障害者虐待防止法」の周知徹底を図るとともに、障害者の自立と養護者への支援体制の一層の推進

## ③ 特別支援教育の充実

- (1) すべての子どもたちへの「心のバリアフリー」の学習を充実するなど、幼少期からの福祉教育の推進
- (2) 教職員に対する知的障害特性や合理的配慮についての理解啓発研修の充実など、特別支援教育の充実強化
- (3) 特別支援学校の教室不足の解消や、特別支援教育における医療的ケア実施体制の充実など、特別支援教育環境の改善推進
- (4) 学校卒業後から生涯にわたって、文化・スポーツ面を含めた障害者の多様な学びや体験機会の充実



## ④ 地域生活支援の推進

- (1) 地域における乳幼児期からの早期相談支援や早期療育を充実するための体制整備
- (2) 障害のある人に寄り添いながら、現在の困りごとや将来希望する暮らし方などの「ライフプラン」を一緒に考える相談支援の充実
- (3) 障害者の高齢化・重度化や親亡き後に備えるとともに緊急時への対応を図るため、相談や緊急時受け入れの24時間対応や体験の場など、障害者の生活を地域全体で支える機能を備えた「地域生活支援拠点」の整備
- (4) 行動障害が顕著な人への支援不足から、生活介護やショートステイなどの利用が断られることのないよう、支援員に対する障害特性に関する理解啓発研修の充実や適切な支援体制の整備
- (5) 「我が事・丸ごと」の地域共生社会づくりを進めるため、地域での生活のしづらさや複合的な課題を抱える家族の相談を包



括的に受け止めるための、市町村における包括的な支援体制の整備

- (6) 障害者の高齢化や重度化、認知症の発症に対応できるよう、障害福祉と介護・医療との連携や共生型サービスの推進

- (7) グループホーム、共生型グループホーム、生活介護事業所等の設置に伴う地域住民に対する理解啓発策の構築、及び整備費所要額の確保

- (8) グループホームにおける医療的ケアや強度行動障害、高齢化に伴う特別なニーズ等に対応できる支援員の配置と報酬単価の適正化

- (9) **(新)** 福祉・介護人材の確保・定着を図るための支援施策の推進

**5 就労支援の推進**

- (1) 障害者優先調達法による発注拡大に努めるとともに、「富山県工賃向上支援計画」を検証し、障害者が地域で自立した生活が

送れるような所得保障の拡充

- (2) 様々な特性を持った知的障害者が、雇用現場で意欲を持って活躍でき、職場定着が図られるよう、雇用現場における相談窓口の設置や合理的配慮の周知徹底

**(新)**

- (3) 知的障害のある人が、県行政の仕事の中でどのような活躍できる場があるのか十分に検討し、障害者が働ける機会の創出と就労を支援する職場環境整備の推進

**6 防災対策・**

**安心安全対策の推進**

- (1) 知的障害者の障害特性への理解啓発、コミュニケーション支援、誘導支援等を盛り込んだ防災訓練の実施

- (2) 災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保

- (3) 障害者が避難できる施設の場所を、障害者に具体的に提示す

る仕組みの構築（サービス等利用計画での対応）など、災害時支援の具体的な情報提供の推進

- (4) **(新)** 災害時の避難所における感染症対策と障害特性に応じた合理的配慮の提供

- (5) 地域における知的障害者理解の浸透を図るための「ヘルプ

マーク」の普及啓発と、災害時や緊急時など困ったときに配慮や手助けをお願いする、「ヘルプカード」の作成



令和2年10月28日(水)、富山県厚生部長をはじめ、教育委員会（県立学校課、教育企画課）、商工労働部（労働政策課）に対し、令和3年度の県予算に対する要望活動を行いました。今回は、6月に緊急要望した新型コロナウイルス感染防止のその後の対応をはじめ、権利擁護、地域生活支援、防災対策、特別支援教育などについて、話し合うことができました。

**★「我が子が感染したら、家族が感染したら……」(厚生部)**

本人や家族の不安の声が多く届いていることを伝え、「障害のある本人が感染したら、原則近くの感染症指定病院へ入院する、個々の障害特性によっては入院調整する」、「家族が入院した場合には、相談支援事業所に相談して短期入所が利用できるか、あるいは本人に必要な支援がなされるよう関係機関と連携していく」との返答がありました。

緊急時の一時受け入れ施設の設置という議論までには至っていませんが、基本的な考え方を確認することができました。

**★県立学校課に対して(教育委員会)**

卒業後の「就労」だけではなく、「地域生活、余暇活動」にも重きを置いて、地域には何でも相談できる「育成会」という存在があることを、広く周知して頂きたいとPRしてきました。



**富山県育成会の会員になりませんか!**

知的障害のある本人たちの権利擁護を推進し、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりと一緒に進めましょう。

**正会員**

障害のある人の保護者や家族

年会費 **5千円 (1世帯)**

市町村支部や施設保護者会でさまざまな活動を行っていますので、市町村支部等にもご入会をお願いします。

**賛助会員**

育成会の活動を理解、応援して下さる方を募っております。

**年会費**

特別賛助会員 **1口 3千円**

賛助会員 **1口 1千円**

ご入会いただいた方につきましては、令和3年5月発行の会報にご芳名を記載させていただきます。(匿名でも結構です。)

**令和2年7月豪雨災害 義援金活動 御礼**

あたたかいご協力・ご支援をありがとうございました。

**783,500円**

令和2年9月30日に、全国手をつなぐ育成会連合会へ全額を送金いたしました。

**全国手をつなぐ育成会 冊子「手をつなぐ」**

コロナ禍で、研修会がない! 研修会に行けない!

そんな時にも、知的障害のある人の生活に関する問題や、福祉施策の最新情報、全国各地の先進的な取り組みなど、毎月たくさんの情報が届きます。

※4月号～翌年3月号のお届けとなります。



年間購読料 **3,900円**

**富山県保育士会様**

**ありがとうございました**

富山県保育士会様より、今年もたくさんのタオルの寄贈をいただきました。

事業所部会に属する

県内6カ所の法人にお送りし、グループホームや作業所等で大切に温かいご支援、ありがとうございました。



みんなで 守ろう 子どもと 老人

**育成会の動き**

期日	内容
<b>[報告]</b>	
9/8(火)	権利擁護推進委員会 (サンシップ)
9/10(木)	社会福祉施設・団体 正副会長連絡会議 (サンシップ)
9/13(日)	本人活動部会 (サンシップ)
9/15(火)	県議会 自民党政調会 県予算要望 (県議会)
9/16(水)	サポート協会理事会・審査会 (サンシップ)
9/23(水)	心の輪を広げる体験作文・ポスター審査会 (県民会館)
10/13(火)	特別支援学校長との懇談会 (呉羽ハイツ)
10/17(土)	困りごと悩みごと相談ワークショップ (サンシップ)
10/22(木)	富山障害フォーラム会議 (聴覚障害者センター)
10/27(火)	権利擁護推進委員会 (サンシップ)
10/28(水)	県予算要望 (県庁)
10/31(土)	サポートノート学習会 (サンシップ)

期日	内容
11/8(日)	本人活動部会 パイロットウォーク (富岩運河環水公園)
11/17(火)	県発達支援・特別支援協議会 (県民会館)
11/26(木)	事業所部会 意見交換会 (呉羽ハイツ)
ク	育成会合同研修会 (呉羽ハイツ)
11/28(土)	困りごと悩みごと相談ワークショップ (サンシップ)
12/2(水)	富山障害フォーラム会議 (聴覚障害者センター)
12/3(木)	心の輪を広げる体験作文・ポスター表彰式 (県民会館)
12/5(土)	サポートノート学習会 (サンシップ)
<b>[予定]</b>	
12/16(水)	権利擁護推進委員会 (サンシップ)
ク	育成会 理事会 (サンシップ)